

登壇者プロフィール

宮田 亮平（文化庁長官）



金工作家。新潟県佐渡に2代目宮田藍堂の3男として生まれる。1972年東京藝術大学大学院美術研究科工芸専門課程（鍛金専攻）修了。イルカをモチーフとした「シュプリングエン」シリーズなどの作品で、「宮田亮平展」（個展）をはじめ、国内外で多数の展覧会に参加。「日展」内閣総理大臣賞や「日本現代工芸美術展」内閣総理大臣賞など数々の賞を受賞。2012年第68回日本芸術院賞受賞。2005年から2期10年に渡り東京藝術大学学長を務めた後、2016年4月文化庁長官に就任。「東京2020エンブレム委員会」委員長も務めた。

池坊専好（華道家元池坊次期家元）



小野妹子を道祖として仰ぎ、室町時代にその理念を確立させた華道家元池坊の次期家元。京都にある紫雲山頂法寺（六角堂）の副住職。いのちをいかすという池坊いけばなの精神に基づく多彩な活動を展開。2013年にはハーバード大学においてワークショップを、またニューヨーク国連本部において世界平和を祈念し献花を行った。アイスランド共和国名誉領事。

篠原哲雄（「花戦さ」映画監督）



1962年2月9日生まれ、東京都出身。助監督として森田芳光監督や金子修介監督の作品などに参加。96年、『月とキャベツ』で劇場用映画デビュー。主な監督作品に『はつ恋』（00）、『昭和歌謡大全集』（03）、『天国の本屋～恋火』『深呼吸の必要』（04）、『地下鉄（メトロ）に乗って』（06）、『山桜』（08）、『真夏のオリオン』（09）、『小川の辺』（11）、『起終点駅 ターミナル』（15）などがある。

華道男子グループ 「IKENOBOYS（イケノボーイズ）」



2017年に、華道家元池坊は花をいけた記録から555年の節目を迎えました。そこで、伝統文化華道の素晴らしさや奥深さを力強く伝えていくことを目的に、池坊華道を学ぶ5人の若手華道人が集結し、活動を開始しました。

IKENOBOYSとは、華道の技と心を伝えていく「イケメン＝いけるメンズ」の集団です。グループ名前の由来は、華道の家元である「池坊」を学ぶ男子＝池坊男子たち＝IKENOBOYSです。



活動内容は、華道の魅力を伝えることを目的に、メディア出演、パフォーマンス、ワークショップなど幅広く活動しております。

（写真は、今回参加予定の柿沢正一（上）、藤井真（下））